

生コンクリートの取り扱いについて（通知）

技術基準の種類:技術管理
通知日:昭和61年3月12日

発管第53号
昭和61年3月12日

部内各課長殿
各土木事務所長殿
鳥取空港建設事務所長殿
鳥取港湾事務所長殿
賀祥ダム建設事務所長殿

土木部長

生コンクリートの取り扱いについて（通知）

このことについては、「土木工事設計標準」（昭和60年9月19日付発管秘第118号）及び「高炉セメント使用の取扱いについて」（昭和57年3月11日付発管第63号）により通知しているところですが、このたび、使用基準を別紙のとおり改正しましたので、昭和61年4月1日以降起工決裁する工事から適用してください。

また、この改正によりほとんどの土木構造物に使用する生コンクリートは高炉セメント使用のものとなりますが、高炉セメントには、

- (1) 初期強度の発揮が遅い
 - (2) 早期材令において、低温及び乾燥の影響を受けやすい
- 等の特徴がありますので、初期養生は十分に実施する等施行管理に注意してください。

生コンクリートの取扱い

生コンクリートを使用する場合、土木工事共通仕様書123条レデーミックス
コンクリートによるものとする。
設計基準強度に対する生コンクリート使用の場合の呼び強度は次表とする。

表1一般構造物

設計基準強度 (kg/cm ²)	許容応力度 (kg/cm ²)	呼び強度		粗骨材最大寸 (mm)	スランプ (cm)	セメントの種類	種別
		標準品	特注品				
160	$\frac{160}{4}$	160	—	40	8	高炉B	◦重力式、半重力式の擁壁、橋台、橋脚、 胸壁（但しこの場合の鉄筋許容応力度 （異形鉄筋） $\frac{160}{180} \times 1600 = 1422 \text{ kg/cm}^2$ とする） ◦ブロック擁壁の胴込、裏込、基礎 ◦管渠 ◦防音壁の基礎（但し無筋構造） ◦側溝、樹（但し無筋構造） ◦注枠中堀、法面コンクリート ◦根固ブロック ◦捨コンクリート ◦その他無筋構造物
						高炉B	◦潜函基礎の底版
160	$\frac{160}{4}$	160	—	40	5	高炉B	◦砂防ダム
180		180	—	40	8	高炉B	海岸構造物及び消波ブロック
		210	—	40	12	高炉B	◦トンネル（アーチ部）
		210	—	40	8	高炉B	◦トンネル（側壁部）
210	$\frac{210}{3}$	210	—	20 又は 25	8	高炉B	◦L型、逆T型、扶壁式の擁壁 ◦橋台の翼壁 ◦防音壁の基礎（但し鉄筋構造） ◦側溝、樹（但し鉄筋構造） ◦蓋 ◦函渠（但し土被り1m以上） ◦地覆（但し10m ² 以上、10m ² 以下は 床版と同一） ◦場所打法等 ◦その他鉄筋構造物

設計基礎強度 (kg/cm ²)	許容応力度 (kg/cm ²)	呼び強度		粗骨材最大寸法 (mm)	スラブ厚 (cm)	セメントの種類	種 別
		標準品	特注品				
210	$\frac{210}{3}$	210	—	20 又は 25	8	高炉B	・L型、逆T型、扶壁式の橋台、橋脚、胸壁 ・RCのT桁、スラブ桁、ホロー桁 ・井筒、浴函基礎 ・函渠（但し土被り1m以下） ・側門、樋管、サイホン等の河川構造物
240	$\frac{240}{3} \times 0.9$	240	—	20 又は 25	8	高炉B	・深礎杭
240	$\frac{240}{3}$	—	300	20 又は 25	15	高炉B	・場所打杭（リバーズ、ベノト、アースドリル） ・井筒基礎の底版
240	$\frac{240}{3}$	240	—	20 又は 25	8	普通	・プレテンション工桁（JISA5319、5313）の中継 ・非合成床版
270	$\frac{270}{3.5}$	270	—	20 又は 25	8	普通	・合成桁床版（2等橋）
300	$\frac{300}{3}$	300	—	20 又は 25	8	普通	・プレテンションT桁（JISA5315）、 ・ポストテンション桁、プレテンション ・ホロー桁（建設省標準設計）の各床版、 ・横桁
300	$\frac{300}{3.5}$	300	—	20 又は 25	8	普通	・合成桁床版
400	$\frac{400}{3}$	400	—	20 又は 25	8	普通	・ポストテンション桁の主桁

- (注)
- 1) 耐久性を特に必要とする海岸等の構造物は呼び強度180とする。
 - 2) 橋台翼壁の呼び強度は210を原則とするが、1橋台当たり10m²以下
の場合は、本体（重力式、L型等）と同一の強度としてよい。
 - 3) セメントの種類は、普通：普通（早強）ポルトランドセメント、高炉B
：高炉セメントB種

表2

港湾構造物

種類	設計基礎強度 (kg/cm ²)	許容応力度 (kg/cm ²)	呼び強度		粗骨材最大寸法 (mm)	スラブ厚 (cm)	最大水・セメント比	セメントの種類	種 別
			標準品	特注品					
無筋コンクリート	150	150	150	—	40	8	又は 70%	高炉B	・字組工字桁・花工字桁
									・根固工ブロック・防波堤上部工
									・ケーソン・控壁・暗渠・擁壁
鉄筋コンクリート	180	180	180	—	40	8	又は 65%	高炉B	・異形消波ブロック（公称重量6t未満） ・異形根固ブロック・本体ブロック ・係船岸上部工・係船岸基礎 ・胸壁・内渠・船橋場張ブロック
									・異形消波ブロック（公称重量6t以上）
									・係船岸上部工・防波堤上部工 ・床版・渡橋 ・係船岸系（箱式）内渠胸壁
	240	240	240	—	20 又は 40	12	65	高炉B	・床 壁
	240	240	240	—	20 又は 40	12	65	高炉B	・ケーソン・ウエル・ヒルテブロック ・L型ブロック・直立消波ブロック
鋼管コンクリート	40	—	—	45	40	25	—	高炉B	・鋼管・エプロン

- 注
- 1) 「最大水・セメント比」は耐久性を基にして定めたものであり強度から求まる
水・セメント比に優先しなければならない。
 - 2) 異形ブロックは根固めを目的とする場合でも取扱いを考慮して消波・被覆と同一に
扱う。